

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Cコート	第3試合 12:00~									
<チームA> 都立芦花 東京 6位		62 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>1Q</td><td>22</td></tr> <tr><td>2Q</td><td>30</td></tr> <tr><td>3Q</td><td>17</td></tr> <tr><td>4Q</td><td>15</td></tr> </table> 84	1Q	22	2Q	30	3Q	17	4Q	15	<チームB> 県立市ヶ尾 神奈川 5位		
1Q	22												
2Q	30												
3Q	17												
4Q	15												

【Bブロック】

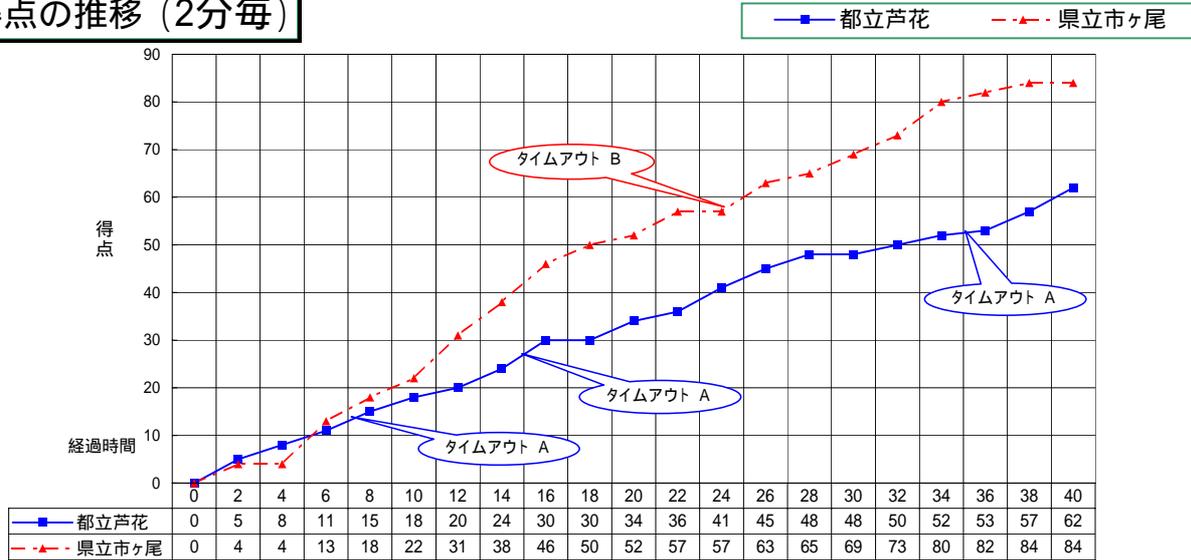
主審: 小沢 勤(山梨) 副審: 秋葉 純(茨城)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	永井 喜也	12	1	3	3	4
	5	秋本 康太	6	1		3	4
	6	袖平 光一	6		3		2
	7	山本 晃敏	17		7	3	1
	8	杉田 大地	11		5	1	3
	9	川上 制大					
	10	北村 崇					
	11	井上 優太					
	12	霧 彰宏					
	13	石川 実					
	14	磯 昇二郎					
	15	奥山 勇也	5	1	1		2
	16	永見 貴弘	5		2	1	1
	17	長安 千平					
	18	石井 大将					
コーチ		倉口 勉					
合計			62	3	21	11	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	蜂谷 航	11	1	3	2	3
	5	岡 智宏	5	1	1		2
	6	鈴木 秋斗	4		2		2
	7	國本 勝太	17	1	4	6	1
	8	森 雅俊					1
	9	新谷 和久					
	10	皆川 翔輝					
	11	青木 強					1
	12	諫山 侑矢	20		10		4
	13	成田 大貴	2		1		2
	14	金子 健太					
	15	西山 僚平	10	1	3	1	4
	16	加藤 太一	15	3	3		1
	17	武藤 卓也					
	18	奥山 貴生					
コーチ		内藤 学					
合計			84	7	27	9	

:スターター / :出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評 記者: 秋田 拓郎

第1P、芦花は1-2-2ゾーンプレスからの3-2ゾーンとハーフコートマンツーマンの併用、市ヶ尾はハーフコートマンツーマンでゲームスタート。芦花は永井のカットインに周りのプレイヤーが合わせる形で得点を重ねる。対する市ヶ尾は始め相手のゾーンプレスに戸惑いを見せていたが、途中交代の加藤が3pを決めて流れを変え4点リードで第1P終了。

第2P、両チームともディフェンスの変更なし。市ヶ尾は出だしから激しいディフェンスで相手のミスを誘い、速攻と加藤の2連続3pなどでリードをひろげる。芦花は山本、杉田にボールを集めインサイドでの得点を狙うが攻めきれず苦しい展開が続く。14点差になったところでたまたまタイムアウト。しかし、その後も状況は好転せず、逆に市ヶ尾 諫山にオフェンスリバウンドを拾われ失点を重ねてしまう。市ヶ尾18点リードで前半終了。

第3P、芦花は1-2-2オールコートゾーンプレスから2-3ゾーンにディフェンスを変更。市ヶ尾は相手のゾーンプレスにパス回しで対応し、フロントコートでは國本の果敢なカットイン、蜂谷の3p、諫山のハイポストからのジャンプシュートで着実に得点を挙げていく。対する芦花は杉田のゴール下、山本のジャンプシュートでくらくらいつつも点差を縮めるには至らず、市ヶ尾19点リードで第3P終了。

第4P、芦花はゾーンプレスのラインを押し上げ必死のディフェンスをみせるが、市ヶ尾は引き続き冷静なパス回しでボールを運び、蜂谷のカットイン、岡の3pで得点を重ねる。芦花は肝心なところでリバウンドが取れず、点差が29点に開きタイムアウトを請求。タイムアウト後、芦花はディフェンスをオールコートマンツーマンに切り替えたが市ヶ尾優勢の状況は最後まで変わらず、84-62で市ヶ尾が勝利した。